

富山大学 都市デザイン学部 同窓会

Vol. **03**

同窓会誌
(発刊 2025年9月)



会長挨拶

原田 隼輔

日頃より、都市デザイン学部同窓会活動に、ご支援、ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

都市デザイン学部同窓会の活動の一環として、2024年度地域デザインPBL最終報告会に出席させていただきました。本報告会においては、動画を用いたフラッシュトークとポスター発表が実施されました。フラッシュトーク用に作成された動画では、自動音声の活用や映像技術の工夫がなされており、発表技術の進化を強く実感いたしました。社会の変化に対応した講義形態の改革や、それに伴うスキルの向上が垣間見える貴重な機会でした。また、ポスター発表が行われることをお伺いし、同窓会として議論促進の一助となるようお茶菓子を準備させていただきました。都市デザイン学部の特徴であるPBL型学習のために、同窓会として今後も継続的な支援を行なっていく所存であります。

同窓会誌の編纂に加え、ホームページの更新も実施いたしました。今後も定期的にホームページを更新し、同窓会の活動を皆様にお伝えできるよう努めてまいります。

2025年3月25日には、グランテラス富山において都市デザイン学部学位記授与式が挙行政され、合わせて卒業祝賀会を開催いたしました。学生の皆様のご卒業を心よりお祝い申し上げるとともに、社会におけるご活躍を楽しみにしております。

さらに、2025年は富山大学が統合され、20周年を迎えます。これに際して、富山大学統合20周年記念式典・シンポジウムが開催されます。富山大学同窓会連合会として、本行事に積極的に協力し、統合後20年間の歩みを振り返りつつ、次の20年を展望する貴重な機会としたいと考えております。都市デザイン学部同窓会も富山大学同連合会の一員として、この行事に協力し、現役の学生や同窓生の皆様との交流をさらに深め、連携の強化を図ってまいりたい所存でございます。

結びに、同窓生の皆様のみますますのご活躍をお祈り申し上げるとともに、皆様のご活躍をお聞きできる場を設けることができればと考えております。

都市デザイン学部への設立に向けた歩みと展望

学部長 安永 数明

都市デザイン学部の設立に向けた準備が始まったのは、2015年に国連でSDGsが正式に採択される前後の時期であり、構想段階を含めると、すでに10年弱の歳月が流れています。当時、「持続可能性」という言葉は一部の専門家や政治家・活動家の間では使われていたものの、一般社会にはまだ広く浸透していませんでした。そうした状況のなかで、「持続可能な社会の実現」という理念を名称にも掲げた、日本初の高等教育機関として出発したことは、本学部の先見性を象徴するものと自負しております。また、2013年には、ある国際的な科学誌において「2020年までに最も就職機会の多い分野はコンピュータサイエンスである」との予測が示されましたが、国内では必ずしも迅速な対応がなされませんでした。そうした中、いち早く行動を起こした滋賀大学では、現在ではデータサイエンス学部が看板学部となっているようです。本学部においても、そうした時代の兆しを見逃すことなく、データサイエンスの必修化に先駆的に取り組んできました。

こうした取り組みの背景には、「非連続的な変化」への対応という大きな課題があります。変化が指数関数的に加速したり、階段関数のように突然の転換を迎えたりする非線形的な社会において、人類や社会は必ずしも柔軟に対応できるわけではありません。DS（データサイエンス）やSDGsのように、後から振り返れば「当然の変化」と思えるようなことも、その只中であっては多くの人々にとって未知であり、容易には理解されないものでした。Appleの創業者の故スティーブ・ジョブズは、「前を見て点と点を結ぶことはできない。だからこそ、将来それらがつながると信じるしかない」と語りました。まさに、私たちの学部設立の歩みも、そのような“信じる力”に支えられていたと感じています。未来を描くには、現在の延長線上にある帰納的思考だけでは不十分であり、より根源的な原理に立ち返って構想を組み立てる演繹的思考が必要となります。とりわけ、既存の経験や枠組みが通用しなくなるような状況においては、演繹的な視点こそが、次なる一步を導いてくれるのです。

現代は「第4の変化」、すなわち「ロボットとAI」の時代へと突入しようとしています。この変化は、これまでの延長線では捉えきれない、本質的な非連続性をはらんでいます。そのような未来において、皆様が直面するさまざまな課題に対し、大学で培った学びが、道を切り拓く確かな力となることを心より願っております。とりわけ、地域デザインPBLでは、専門知識の文脈から一度離れ、専門用語が通じない仲間と対話を重ねながら現実の課題に取り組んでいただきました。これはまさに、非連続的・非線形的な社会における問題解決能力を育む、重要な訓練であったといえるでしょう。大学という組織は本来的に保守的であり、急激な変化には適応しにくい側面を持っていますが、本学部の教育はそうした限界を超え、未来社会に対応するための「思考の武器」を提供できたものと確信しております。

最後になりますが、学部の運営にあたっては、同窓会の皆様から常に温かいご支援をいただいております。これまで、新型コロナウイルス感染症の影響により、卒業式後の公式行事は各学科に分かれての学位記授与のみにとどまっておりましたが、2023年度からは学部全体での立食形式の卒業記念パーティを実施することができ、多くの参加者から好評をいただきました。この開催に際し、同窓会の皆様からのご支援を賜りましたことをご報告申し上げますとともに、改めて深く感謝申し上げます。また、2024年度には、在校生支援の一環として、学部共通科目「地域デザインPBL」への差し入れをいただきましたことにも、心より御礼申し上げます。

今回の同窓会誌が、これまでの成果と今後の展望を共有し、皆様との絆をより一層深める契機となれば幸いです。未来を切り拓いていく皆様とのさらなる協力を、心より期待しております。

退職教員より

退職にあたって

地球システム科学科 大藤 茂

2025（令和 7）年 3 月末をもちまして、富山大学を定年退職いたします。本学には、博士課程修了直後の 1987（昭和 62）年 4 月に赴任いたしましたので、地球システム科学科の沢田先生や中嶋先生がお生まれになる前から 38 年間、終身雇用に近い形で勤めたことになります。1987 年生まれの著名人を調べると、女優の長澤まさみさん、サッカーのリオネル・メッシさん、フィギュアスケートの織田信成さん、ピアニストのユジャ・ワンさんとカティア・ブニアティシビリさん等、各界でご活躍されている方々のお名前が並びます（人選に偏りあり?）。彼らの活躍を目にすると、38 年という歳月の長さを実感いたします。



長年同じ職場にいと新鮮な気持ちが薄れていくという話も聞きますが、大学には毎年新入生が入ってくるので、新鮮な気持ちが薄れたことはありません。中でも、都市デザイン学部の開設準備から開設初年度〔2018（平成 30）年度〕にかけては充実した日々でした。設置審書類の作成、高校訪問、オープンキャンパス、AO 入試（2017 年 11 月実施）等は大変でしたが（本当に大変だったのは事務の皆さん）、多くの教員の昇任、新任教員の受入れ、新たな機器や設備の導入などを伴うものでしたので、おのずと気合が入りました。

2018 年 4 月には、新任教員の皆様と第 1 期の新入生を迎えました。学科の新任教員 5 名には、当初学科紹介のスライド作りなどを通じて学部・学科に慣れていただきましたが、皆様すぐに、私が師事したいと思うほど頼もしい存在となりました。2018 年度入学生も、フロンティア精神をもって新学部・学科の土台づくりに尽力してくれました。特に、後述の新型コロナ禍の中、2020 年 9 月 13 日～17 日には、1 期生 5 名および大学院生とともに『北上巡検』を実施できたことは、懐かしい思い出です。

2018 年 4 月の学部開設以降の 7 年間、平成 30 年北海道胆振東部地震（2018 年）、新型コロナウイルス感染症の世界的流行（2020～2021 年）、市内最大積雪深 128 cm を記録した豪雪（2021 年）、令和 6 年能登半島地震（2024 年）、および令和 6 年 9 月能登半島豪雨と、災害や非常事態が続きました。また、この間には、私と歳の近い星野先生と小室先生がご逝去されました。こうした困難が続いていますが、都市デザイン学部および卒業生は、富山県や富山大学の発展、ならびに能登半島の災害研究および復興の核となって活躍してくれるものと確信しております。私も富山永住を決めましたので、微力ながら学部の活動に尽力できれば幸いです。

38 年間、未熟な私を支え、励ましてくださった教員、学生、卒業生の皆様に、改めて御礼申し上げます。最後になりましたが、大学執行部の意向と学部教員・学生の意見をうまく調整して、学部・学科の運営を支えてくださっている理工系総務課および理工系学務課の皆様に心より御礼申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。

2020年4月より富山大学都市デザイン学部材料デザイン工学科に助教として採用いただき、この5年間大変お世話になりましたこと厚くお礼申し上げます。採用面接の際に、企業時代のマグネシウム蓄電池開発話をしたところ、当時の学科長であられた佐伯先生より、「大学でも続けてみては?」とコメントされたのをきっかけに、そのテーマに再度取り組み今日に至っている。その間、新設されたばかりの研究室に温かく迎えていただいた会田先生と学生諸子、さらには学内外の大勢の方々に支えられ、特徴ある研究成果を残せたのではと感じている。渡邊前学部長、安永現学部長にはお会いした時に色々お声がけいただき、西村名誉教授には有益なご助言をいただき、松田先生には多くのご相談をし、小野先生には困りごとを聞いていただき、城戸先生に色々助けていただいた。そのほか機器分析、機械工場、総務、学務、産学連携諸の関係者には、本当にお世話になった。



一方、北陸では初めての生活であったが、学外で接する人たちも温かく、とても住みやすい地方である。また、学生気質としては、素直で素朴である一方で、おとなしく消極的に感ずる。対人関係を恐れずにもっと積極的に仲良くケンカすることを心掛けてほしい。対人関係を恐れず楽しみながら、ペイフォワードの精神で次世代の富山人として活躍していくことを望む。

卒業生からの一言・思い出

地球システム科学科から学んだこと

地球システム科学科 濱野 智光

私は、幼い頃の東日本大震災の体験により、地震に強い興味を持つようになった。やがては地学一般に興味を持つようになり、地球科学を総合的に学べる当学科に進学した。当学科では気象学、火山学、地殻物理学、鉱物学、地質学、海洋学など、地球科学における幅広い分野について広く学ぶことができた。私は卒業研究で地震を扱ったが、その研究に際し、気象学で学んだ数式の解法、火山学でのマグマの知識、地質学での地層の知識など、他分野で得た知識には何度も助けられた。私は当学科のカリキュラムを通し、一見して関係のないように見える知識が思いがけないところで強力な武器となることを、身をもって学んだ。人はしばしば、その習性上、自分の専門分野に引きこもる“タコツボ化”を引き起こす。そしてタコツボ化により近視眼的な視野に陥り、時として重大なミスを犯しうる。タコツボ化を回避するには、他分野の知識も取り入れることが必要である。私はこの春から大学院へ進学するが、暗く冷たい海底のタコツボに引き籠ることなく、他分野の餌を求めて地球科学という明るく温かい大海原に繰り出すタコでありたいと思う。



卒業にあたって

都市・交通デザイン学科 田中 利幸

大学4年間はあっという間に過ぎていった。素晴らしい友人と出会い、新しい組織に飛び込み、よき先輩方に導かれながら、様々な知識を吸収した日々はとても楽しいものであった。特に、友人と過ごした時間は忘れがたいもので、沢山の苦楽を共にしてくれたことに感謝してもしきれない。

また、数多くの授業で取り入れられたグループワークや、視察などの学外授業も思い出深いものである。学科内だけでなく、学部内や大学全体の学生で行われるワークでは、数多くの学生と学びを深め合うことができた。異なる分野を深めている学生との出会いは、新たな知見に触れることが多くある。さらに、富山県内の各地に赴き、施設の見学や歴史などの解説は大変貴重な経験だった。

ところで私は、大学院に進学し、あと2年は富山での生活が続く予定である。まだまだ知らないことだらけの富山を楽しみ尽くしたいと思う。富山を離れてしまうみなさんも、時には富山のことを思い出して、気が向けば戻ってきて欲しい。



大学生活4年間の思い出

材料デザイン工学科 石川 弥月

富山大学に入学してからの4年間の生活は、勉強面だけでなく生活面でも成長することができたと感じています。入学した当初のことを振り返ると一人暮らしはできるのか、勉強で置いていかれないかなど不安を抱えていました。初めは高校とは違う形式の授業に苦戦し、進級が危うい状況になったこともありました。

2年生に上がり、大学生活にも慣れてきたので飲食店のアルバイトを始めました。初めはお客さんに緊張してあまり声が届かないなど慣れない業務が続きました。しかし、続けていくうちに声も通るようになり余裕を持って接客できるようになりました。このアルバイトのおかげで初対面の人との会話などに困ることが少なくなりました。また、1年生の頃よりも忙しくなりましたが、明け方まで動画を見て過ごすような日が減ったことで規則正しい生活になり、学校の成績も良くなっていました。

4年生になり研究室への配属が決まり、いよいよ本格的に研究がスタートしました。同期とも配属時はあまり面識がなく不安だったのですが、アルバイトやサークル活動のおかげか、同期や先輩に積極的に話しかけることができました。学校やアルバイト、遊びの全てを全力で頑張るということを目指し毎日忙しくも楽しく過ごすことができました。

私は春から富山大学の大学院に進学します。4年間で学んだことを活かしてこれからも研究に励んでいきたいと思っています。



令和6年度の受賞

上好 慧 (地球生命環境科学プログラム修士2年, 2期生)

日本気象学会松野賞 (2024.12.19)

「2種類の対流結合西進慣性重力波の存在について」

瀬能正太郎 (地球生命環境科学プログラム修士2年, 2期生)

日本活断層学会 2024 年学術大会 若手優秀講演賞 (2024.11.3)

「敦賀断層の断層岩中に含まれる粒子の三次元配列」

濱田 慧治 (地球生命環境科学プログラム修士2年, 2期生)

日本気象学会松野賞 (2024.12.19)

「静止気象衛星ひまわり地球周縁部観測を用いた中層大気オゾンの検出」

日置真太郎 (地球生命環境科学プログラム修士2年, 2期生)

日本気象学会松野賞 (2024.12.19)

「太平洋 ITCZ における対流活発域の季節進行に伴う東西移動」

久志 勘太 (都市・交通デザイン学プログラム修士2年, 2期生)

情報処理学会 第23回情報科学技術フォーラム奨励賞 (2024.9.6)

「流域雨量指数予測の確度特性に基づく河川ごとのパターン分類の提案」

佐野 天駿 (都市・交通デザイン学プログラム修士1年, 3期生)

第59回地盤工学研究発表会優秀論文発表者賞 (2024.9.11)

「振動特性による定量的な落石発生源危険度調査方法の基礎研究」

大羽 伸也 (マテリアル科学工学プログラム修士1年, 3期生)

日本鉄鋼協会第188回秋季講演大会学生ポスターセッション奨励賞 (2024.9.19)

「1873Kにおける溶鉄中 La-Cr 間の相互作用係数」

前川 翔 (マテリアル科学工学プログラム修士2年, 2期生)

ICPMAT2024 ベストポスタープレゼンテーション賞 (2024.10.2)

「Analyses of Phase Stability, Microstructure and Mechanical Properties of Laser Powder Bed Fusion-Produced Ti-6Al-4V/Ti-15Mo-5Zr-3Al Interface」

Sanphiboon Wanlalak (マテリアル科学工学プログラム修士1年, 3期生)

ICAA19 (第19回アルミニウム合金国際会議) 優秀ポスター発表賞 (2024.6.27)

[Mechanical properties and microstructure characteristics of Al-Zn-Mg alloys of varied Zn/Mg ratios]

日本金属学会北陸信越支部・日本鉄鋼協会北陸信越支部

令和6年度連合講演会 優秀学生発表賞 (2024.11.30)

The relationship between precipitates and hardness in Al-Zn-Mg alloy with high and low Zn/Mg

横山 楓 (マテリアル科学工学プログラム修士1年, 3期生)

日本銅学会第64回講演会 学生優秀講演賞 (2024.11.27)

[In 添加した Cu 合金 Nb₃Sn 超伝導線材における熱処理温度とミクロ組織変化]

藤本 和伸 (マテリアル科学工学プログラム修士2年, 2期生)

軽金属学会 軽金属希望の星賞 (2025.1.25)

[Al-Mg-Si 合金の室温予備時効に対する微量添加元素の影響]

八木 隆暁 (マテリアル科学工学プログラム修士2年, 2期生)

軽金属学会 軽金属希望の星賞 (2025.1.25)

[Al-Zn-Mg 合金の時効析出挙動に対する2段時効条件の影響]

前田健二郎

軽金属学会 軽金属希望の星賞 (2025.1.25)

[溶融錫を利用したアルミニウム合金からのケイ素および鉄の分離]

藤村 彩和 (マテリアル科学工学プログラム修士1年, 3期生)

日本金属学会第7回第7分野講演会 優秀ポスター賞 (2024.12.7)

[B2 規則相を有する Ti-Fe 合金の強化挙動]

吉田 理央 (マテリアル科学工学プログラム修士1年, 3期生)

日本金属学会第7回第7分野講演会 奨励ポスター賞 (2024.12.7)

[凝固偏析に基づく Ti-Fe 二元系合金の強度-延性バランスの向上]

吉田 智耶 (マテリアル科学工学専攻博士前期課程1年, 3期生)

日本金属学会北陸信越支部・日本鉄鋼協会北陸信越支部

令和6年度連合講演会優秀発表賞 (2024.11.27)

[グラフェンナノリボン (GNR) 上での Fe 吸着における磁性]

伊藤 遼、岩月 祥矢（都市・交通デザイン学プログラム修士2年，2期生）

全映協グランプリ 2024 学生部門 最優秀賞（文部科学大臣賞）（2024.11.14）

「富山駅前広場」，「松川沿いエリア」

チーム「Amberjacks」

伊藤 颯太，松永 海弘（都市・交通デザイン学プログラム修士2年，2期生）

加藤 海澄，福井 啓示（都市・交通デザイン学プログラム修士1年，3期生）

木山 和紀，高田 吉孝，高橋 真美（都市・交通デザイン学科4年，4期生）

下里 香瑛，中島 菜穂（都市・交通デザイン学科3年，5期生）

小林 楓岳，本岡 飛明（都市・交通デザイン学科2年，6期生）

小林 柚葉，原澤秀太郎，若子 来地（都市・交通デザイン学科1年，7期生）

指導教員：鈴木 康夫 准教授

Japan Steel Bridge Competition 美観部門 準優勝（2024.9）

橋梁名「どらアーチ」



都市デザイン学部
SCHOOL OF
SPATIAL DESIGN

富山大学 都市デザイン学部同窓会 <http://www3.u-toyama.ac.jp/sdalumni/>

同窓会事務局 〒930-8555 富山県富山市五福 3190 工学部内

Tel:076-445-6335 (内 6335), Fax:076-445-6697

E-mail:sdalumni@sus.u-toyama.ac.jp

